

## 第6学年 国語科学習指導案

1 単元名 物語を読んで、考えたことを伝え合おう 「海のいのち」

2 本時の展開

(1) 本時の目標

- 太一が瀬の主を殺さないとした時に、どのようなことを考えていたか、描写を基に読み取ることができる。

(2) 準備物

単元計画掲示、人物関係図、心情を表す様々な言葉掲示

(3) 読み取りの手法

児童の疑問を起点にし、人物の生き方の対比や色などの表現から中心人物の変容を読み取る授業

(4) 学習の展開

学習段階	学習活動(発問は太字)	○指導上の留意点	☆評価規準 【方法】
1 学習課題の把握	1 本時の学習課題をつかむ。	○人物関係図を使って、前時までの読み取りを確認する。 ○事前にめあてをノートに書いておき、めあてを確認後、速やかに範読を始める。	
太一は瀬の主を殺さないとした時、どのようなことを考えていたのだろう。			
2 学習課題の追求	2 学習場面を音読する。 ・ 範読 P. 121L. 2～P. 122 ・ 範読 P. 122L. 4～P. 122L. 13 ・ 範読 P. 122L. 4～P. 122L. 8 指名読み ・ 範読 P. 122L. 9～P. 122L. 13 指名読み 一斉読み  3 太一が瀬の主を殺さなかった時、どのような思いを持っていたかを考え、ノートに書く。 <b>○太一が瀬の主を前にして殺さなかった時、どのようなことを考えていたのでしょうか。</b> ①個人思考 ②ペアトーク ③全体思考	○場面の様子や登場人物の気持ちが理解できるように、1つ1つの言葉を大切にしながら範読を行う。 ○徐々に範読の範囲を狭めていき、発問の部分に焦点化を図る。 ○キーワードとなる描写について、様子や心情を全体で共有しながら範読する。 ○発問となる一文が大切な一文であることを認識させるために、繰り返し音読させる。 ○自分の考えを、本文の描写を根拠にして、どのように考えたのかを書かせる。 ○机間指導で児童の考えを認める。 ○机間指導をしながら、学習場面の描写を根拠にしている、これまでの場面との変容を根拠にしている等、評価をアナウンスする。 ○机間指導の視点 A 瀬の主の描写と父の生き方、与吉じいさの生き方などに触れ、太一の考えの変容・葛藤を捉えている。 B 父の生き方、与吉じいさの生き方	

		<p>などを根拠に、太一の心情の変化を捉えている。 C 直接的な心情表現を根拠に心情を考えている。</p> <p>○ペアトークでお互いの考えを交流させる。</p> <p>○全体思考では、上述のCからAの内容の順で意図的指名しながら、太一の心情が変容した理由に迫る。</p> <p>○父と与吉じいさの生き方や考え方を比較して太一の心情を考えたり、人物同士の関係から太一の心情を読み取ったりしている児童がいる場合、必ず指名する。いなければ、指導者が示し、太一の心情の変容を全体で考察する。</p>	<p>☆太一が瀬の主を前にして殺さなかった時どのようなことを考えていたか、描写や人物同士の関係をもとに読み取っている。 【発言・ノート】</p>
3 まとめと振り返り	4 本時の学習をまとめ、振り返りをする。	<p>○太一の心情の変容を想起しながら音読させる。</p> <p>○振り返りは、友達の考えを聞いて考えたことや気付いたこと等を書くよう指導する。</p> <p>○P. 121L. 2～P. 122を音読し、余韻を残して授業を終える。</p>	

(5) 板書計画

各場面の挿絵を掲示

めあて

海  
の  
い  
の  
ち

人物関係図

太一は瀬の主を殺さないと決めた時、どのようなことを考えていたのだろう。

(6) 授業の主発問と評価基準

発問 太一が瀬の主を前にして殺さなかった時、どのようなことを考えていたのでしょうか。	
評価	
予想される児童の反応例	
A	<p>瀬の主の描写と父の生き方、与吉じいさの生き方などに触れ、太一の考えの変容・葛藤を捉えている。</p> <p>○「千びきに一匹でいい」という与吉じいさの教えから、取る必要の無い命を狙う必要はないと考え、海とともに生きようと考えた。</p> <p>○「不意に夢は実現するものだ。」ということから、クエと海で出会ったことが「おとうといっしょに海に出るんだ。」と重なり、憎しみの気持ちが薄れているから殺さなかったと考えた。</p>
B (規準)	<p>父の生き方、与吉じいさの生き方などを根拠に、太一の子供の心情の変化を捉えている。</p> <p>○「千びきに一匹でいい」というところから、海のいのちを守るために、太一はクエを憎しみの対象として見なくなっていると考えた。</p>
C	<p>直接的な心情表現を根拠に心情を考えている。</p> <p>○「おとう、ここにおられたのですか。」と書いているので、瀬の主のことが、おとうのように思えて、殺すことができなくなった。</p> <p>○無回答</p>